

# みんつど

第八号

編集 天地 成行

村岡鍼灸治療院

山口市湯田温泉5丁目6の12

## 「みんつど」にテレビが取材にきました



左の大橋広宣さんと恵雅子さん(中央)

周南地域で放映のケーブル・福祉番組「こころてれび」

# ありがとうございます

みなさん、おはようございます。こんにちは。こんばんは。みんつども八号になりました。そして、2020年も秋に突入です。季節の変わり目、お元気でしようか？

さて、わたくし天地成行(てんちなりゆき)はこのほど、周南地域で放映されている福祉番組の「こころてれび」の取材を受けました。その大橋広宣さん、恵雅子さんがみんつど編集部を訪れ、みんつどのことや天地のことについて質問されました。その模様はこの秋にでもビジョンなどにて放映される予定です。みんつどの制作現場も撮っていただきました。あー恥ずかしい。ぶち恥ずかしい。かなり緊張しました。

「テレビは怖い。出るんじゃなかった」母に終了後もらいました。でも、みなさん温かく接していただき大変感謝しております。収録が終わって、「ああ、もう少し上を向いていれば」とか「(薬のせいで)口がうまく回らないなあ」、「もつときちんと話せたのに……」と取材される立場が骨身に染みました。

「こころてれび」スタッフの方、本当にありがとうございます。放送楽しみにしております。それではみんつど八号スタートです。

# みんつどをこう見えています

## 読者の声特集

今回の特集は、「みんつど」の読者の反響をお届けしたいと考えます。みなさんがみんつどをどのようにご覧いただいているかをご紹介します。

○個人的には、「出会い通信」から拝読させていただき、その完結編(1号)から「みんつど」への流れと申しすか、つながりが、とても素敵でした。さすが、新聞記者の経験が活かされて、読者のこころをキャッチすると申しすか、魅力を感じました。(実にお見事で、感服いたしました！)

でも、内容的には、「みんつど」は「みんつど」で、まさに「みんつどお」のタイトルどおり、メッセージがしっかりと込められた、発信性により広がりのある、新たな世界観を示しておられます。一愛読者として、天地さんや金光さんならではの、彼らにしか綴ることのできない皆さんの想いが伝わる内容であり、強く心に響いて

おります。天地さんが一歩引かれて、金光さんなどご友人のことを前面に出されてご紹介しておられるところも、人柄が感じられるので、私は、とても素敵であると思っております。

私のようなソーシャルワーカーは、他者と出会ったとき、すぐに支援をさせていただけるとは何であろうかと考えてしまいがちですが、天地さんから、本当の意味での支援と申しすか、まさに対等性のある「応援」や「相互支援」がぴったり感じられるような人とな

メッセージが、とてもあたたかく、心地よく感じられます。生きていくこと自体がストレスとなる超ストレス社会において、特に昨今のコロナ禍でますます、生きにくさを感じております。

「みんつど」をとおしして、私は、精神保健福祉を学んでいる学生やゼミ生、学内の親しい教員とともに、授業やゼミ、学部の教育のなかで、一人の人として、スタッフみなさんのメッセージや世界観の一部を感じ取り、共有をさせていただけるという機会を与えていただき、幸いに思っております。何かと不安をおおられる、といったこの頃ですが、今の対応や取り組みが、先の安心・安全につながると信じて、皆で声をかけ合い、助け合っ

きで明るく、元気な気持ちになるようなハートを届けていただいております。

○精神病を患った経験ある人たちが、自らの経験を、渦中にある又はその家族に伝えるメディア。そして、制作者たちもこれにより、ある種のリハビリをしている。飾らない正直な誌面であることが、そのリアリティを物語っています。

なんだか、応援したくなる。そんな不思議な力を宿します。だから、広告を出すことにしました。

○山口県初の取組です。他県では時々あります。全体的に取り組みの遅い山口県民に一石を投じた内容です。これから前進のためのスタートラインを切った貴重な取り組みです。

(3面に続く)

レストハウス

岩国市川西4の5の156

たんぽぽ

TEL (0822) 466094



# 金光光雄レポート

## 見飽きない「秋」

8月の29日～9月24日まで、下関市の長府図書館において三人で構成される「岩徳光（いわとくみつ）会」による絵画展が開かれた。今回は地元ケーブルテレビでも取り上げられ好評の出足だった。秋にちなみ、あきの名前がつく有名人や、山口県出身の歴代総理大臣を描いた。（ご来場誠に感謝いたします。金光光雄）



（2面の続き）

○自身の障害について  
おおらかに語るといふことは、貴重だと思っています。新聞という媒体を通して、リアルな生き様を継続的に語るといふ実践が、ひとつの方法として広がると思います。

○元気がいいなど。同時にデタガリなのかもしれないとも……。でも、元気な人がいないと地域は盛り上がりがない、表現していくなかで、時々反省しながら、表現の仕方、出し方に工夫を凝らしていけばいいのではないのでしょうか。表現してみ、はじめて、その人が表現したいことが他人に伝わります。表現してみ、はじめて他人も感想を言えます。あと、その人と同時に、なにがしかの地域性、その人をとりまく世界の文化も察することが出来ると思います。

地域の顔が見えることは基本的にはよいことで、まだまだ足りていない部分だとも思います。そういう意味では公的なあたりさわりのない文獻よりも、みんつどのような形式のものがいろいろな情報を伝えているという逆説もありかな、と。

でも、つくる楽しさがみえていたら、自分もやってみようとか、こんなのでよかったら、自分のほうがうまい、とかいろいろ文化が広がると思います。テレビの「県民ショー」をみていても、食べ物文化ばかり、なんだかそれでは寂しいです。県民ショーでは食べ物の文化ばかりだけれども、それだけじゃなく、地域のほかのさまざまな文化、たとえばみんつどの試みとかも紹介されているのではないかなと、ちよつ

と考えてみただけです。そういう文化力しかまだ地域には育っていない面もたしかにあるかもしれないけれども……。だからみんつどに期待。

○福祉に特化した内容だと思っています。時にはユーモアもあり、読んで面白いです。

○関係者の皆さんが楽しめる紙面づくりをされていてよいと思います。

○私は特に福祉とか障がい者のためとかそういうのは頭になく会報、読み物として単純に、楽しんで読んです（音符）

○当事者のリアルタイムの心情を知ることのできる、貴重な新聞だと思っています。

他のメディアは、医師やサポーターという他人目線であつたり、過去の回想だけであつたり。みんつどは、過去回想もあるけど今もある。

○楽しく読みやすいと思います◎  
○みんつど読者として楽しんでいきます！

○今引きこもりが我が市でも問題になり市議会でも取り上げられました。記事でひきこもりの現状とか脱ひきこもりとか病気の事とか一般の人が知り得ない事を連載されたらと思います。紙媒体では金銭的に厳しいので、ホームページを見る人を増やすしかないですね◎案内を市役所他の掲示板に貼ったり、周知活動が大切だと思います。応援してますよ。

○疲れたら休めばいいんだ。セカンドライフをやり直すことはきっとできるし、それは案外楽しいものかもしれない。肩の力を抜いてくれる、地域情報誌です。（ご協力ありがとうございます）

コロナウイルスと闘う  
医療関係者の皆様へ  
心より感謝申し上げます

出版  
ウェブ制作

株式会社  
くらとん

〒742-0417  
岩国市周東町下久原221-1  
Tel0827 (81) 1551  
<https://crouton.co.jp>

# 短編小説「ベリーベリーナイス」三話

◇  
「おーい、坊や。この見出しを制作部に持っていってきてくれ」

「わかりましたあー！」

1997年4月。

たかしは東京の浅草にある新聞社でアルバイトをしていた。過疎問題はどうしたかって？確かにたかしは山深い大学で過疎問題の勉強に励んでいた。サークル活動も順調だった、はずだった。

彼は、本当は4月からある集落に残り研究を続ける手続きをしていた。しかし、同じサークルで一番かわいく同じ集落で過ごすことになる、たちやんに告白して、かなりこつぴどくはずかしい

cafe おだやかのオムカレー

勝原さんに当たる

第六号で募集した、周南市のcafeおだやかさんのオムカレーの当選者が決まりました！

勝原（周南市）さんです。おめでとーい！

フレ方をしてしまったことで、ナイーブなたかしはいられなくなり、急遽逃げように都会へ逃げたというわけだった。若気の至りである。担当教授もあきれていた。

しかし、たかしには、今のこの現状を俯瞰してみるのはまだ早すぎた。卒業式が終わると同時に浅草の築35年の1Fアパートに身を寄せた。バイトは情報雑誌から、一日の拘束が長く時給がいい新聞社にした。面接で「酒は飲めるか」ときかれて、「飲めませんが、御社の基準は何升でしょうか？」とぶっきらぼうにこたえたら、人事部長が笑って「それ正社員にきく問題

なんだけど、君おもしろいから採用！」と即決された。

一日8時間で時給が1000円と高給だから、一日8000円の22日稼働で16万は超える。東京はすごいところだ、とたかしは思った。

しかし、労働は辛い。朝は早くから掲載紙を地区別、ページ別にひもでくくってまとめる作業と掃除。それが終わると社員がやってくるから、あ

いさつと朝礼。しばらくして、印刷物をページ担当編集員にわたす作業と、彼らから冒頭のように、見出しや写真などを制作部にもって行って、できたものがコンベアで下からあがってくるので、それをまた運ぶ作業……。この一か月。部員を観察

していると面白い。主に内勤の編集記者とのやりとりをするが、芸能面の担当記者が、芸能人インタビューして読者プレゼントできた応募はがきを選んでいたことがあった。

「これはうまい字だな」

「これは下手な絵だな」

ふんふん。応募してきたはがきの厳選なるつて。こんな方法するのねん？

とおもって見ていたら彼が「たかしくん、これから三枚引いて」だって。自分で選べつての！

「これからおれ、やっていけるだろうか」

ビートたけしの「浅草キッド」で有名になった煮込み屋の近くの一杯飲み屋でハイボールを飲みながら、たかしは思うのだった。たかしの本当の新たな春が来るのはまだ先になりそうだった。（掲載随時）

## 編集後記

### 冷や汗

みなさま八号はいかがでしたでしょうか？

わたしは常々、「季節の変わり目新聞」なるものを作りたいと思っていた時期があります。自身が病んで以降、この季節の変わり目が非常に辛いのであります。みなさんは大丈夫でしょうか？

さて、今回はわたしの取材やみんつどの感想や意見、金光雄さんからの絵画展リポートがありました。

わたしの取材はもう一面でも書きましたが、緊張半端なくそれはそれは、そのお二人にご迷惑をおかけしました。ここに深く謝罪申し上げます。しかしながら、人と人

の縁は不思議なもので、大橋さんに出会わなければ、「出会い通信」も「みんつど」もなかったわけです。それが、4号で取材させていただいて、今回は大橋さんの番組にわたしが出演して「みんつど」について語るというなんともいえない感じでありました。

決してわたしなどが出られる番組だろうという考えではありませんでした。なんとなくのオフアールでした。そこには大橋さんなりのわたしがわたしらしく生きる上で通った方がいいという試練みたいなもののチャンスを感じたのだかなと少し思います。

取材明けの中、もやもやしていたものが吹っ飛んで新しい朝を迎えられたのもその成長の証なのかなとも思いつつ……。 （天地成行）

大人世代 癒しの空間

cafe おだやか

周南市桜木3の5の15

TEL 0990 (946N) 0007